

マネージメント情報

※OPU-IVF と体外受精卵をとおして思うこと

平成 30 年（2018 年）10 月から THMS 単独の体外受精卵の仕事が始まりましたが、2 年 9 ヶ月の間目まぐるしいスピードで私たちも、まわりも変化してきています。

その様な中、毎日いろいろなことを考えています。

今月の M 情報を書くに当たって「キーワード」を書き出してみました。

「THMS 授精課の移植頭数」「繁殖管理は AI から ET へ」「OPU-IVF」「OPU 施設」

「雌雄判別精液」「日本国内のホルスタインの育種改良は根室管内から」

「ホルスタイン種の輸入受精卵」「受精卵の価格と受胎率と正常分娩」

「個体販売額の増加」「牛の子宮は宝の箱」「子宮の生産性」「Cross Breeding」

「ProCROSS・三元交配」「ゲノム検査による牛群改良」

「黒毛和牛の種雄牛は北海道から…十勝和牛育種組合の誕生」

「様々な人との不思議な出会い」「感謝」…

思いつくままに書いてみました。

これらの「キーワード」を使ってこれから何回かに分けて書いていこうと思います。

「THMS 授精課の移植頭数」「繁殖管理は AI から ET へ」

THMS 授精課の移植頭数は今までに何度か紹介してきましたが、その数の変化にはいつも驚かされています。令和二年度の移植頭数は約 5,000 頭になりましたが、今年直近の 4 月、5 月の移植頭数はそれぞれ 565 頭、641 頭でこのまま続けば年間 7,000 頭を越える勢いです。個人開業の授精所でこの数字は間違い無く日本一だと思っています。ただ多ければ良いということではありませんが、当初考えていました「繁殖管理は AI から ET へ」ということは少しずつ実現されているように感じています。

太田授精師は液体窒素のタンクを 2 個車に積んでいて、その内の 1 つは 100%受精卵が入っていて、もう 1 つも 80%が受精卵で残りが精液で全体の 10%です。他の授精師の移植頭数も同当然増加してきています。

この変化の理由はラボができ、生産している体外受精卵が「受精卵の価格と受胎率と正常分娩」の問題をクリアーしていて、且つ顧客の農場のみなさんの理解があつてのことです。移植する受精卵は F1 と黒毛和牛が多いので産まれてくる子牛がホルスタインと違いすぐに販売できるので「個体販売額の増加」ということも実感できることも移植頭数の増加につながっていることは間違いのないと思います。

もちろん、生かして分娩させて、生かして市場に出荷するという前提があります。

「本交」→「新鮮精液 AI」→「凍結精液 AI」→「新鮮体内受精卵 ET」→「凍結体内受精卵 ET」→「新鮮体外受精卵 (F1) ET」→「凍結体外受精卵 (F1) ET」→「新鮮体外受精卵 (OPU) ET」→「凍結 OPU 体外受精卵 ET」という時代の流れです。

ここまでくることができました。

この後はどの様な体外受精卵を生産（牛の種類・交配する精液・ドナーの能力レベル・受精卵の雌雄判別…）するか？どの様な組み合わせ（種類・順番・追い移植は減っていくと思います→無くなる?!）で体外受精卵を移植するか？

考えても、考えても切りがありません。

※THMS の F1 体外受精卵が府県の家畜改良事業団にも販売することになりました

昨年 12 月から家畜改良事業団の北海道内向け F1 体外受精卵を THMS ラボが生産することになっていましたが、その品質が認められ今月から府県向けの F1 体外受精卵も THMS ラボが生産することになりました。

私たちが生産した体外受精卵が（別海町から）数多くの全国の農場で移植されることに対し気持ちを新たにその責任を実感しているところです。

.....

※今月の 65 回目の誕生日を迎えることができました。前夜して役場から薄い緑色の「介護保険被保険者証」が配達されてきました。自分もそういう年齢になったのだ?! という妙な気持ちになりました。その保険証は「新型コロナワクチン接種券」と一緒に自宅の机の引き出しの中に入っています。両方ともに今の私には必要無いと思っているからです...

大学時代の同級生は開業している獣医師を除いては殆どが定年退職を迎えて第二の人生を選んでいます。私は OPU-IVF という技術に出会ったおかげで、今こうして第一線で仕事をさせていただいています。今回の M 情報にも書かせていただきましたが、この技術は間違いなく今までの酪農・肉牛経営の概念を変えることができると私は信じています。

以前にも何度かこの欄で書きましたが、私のイメージは「①より健康な牛群で②規模拡大をせずに家族経営の範囲で営農ができ、且つ③生産規模は 2 倍以上ということが可能になると思っています。

私の第二の人生は別海町から、根室管内から、道東から、北海道から、日本国内にこの技術を確立して普及すること! と気持ちは大きく! 考えているところであります。

※平成 7 年 8 月から今までずうっと乗ってきました診療車のランクル 80 もいよいよ入れ替えることになりました。走行距離 77 万 km を越えて 100 万 Km を目指していましたが、エンジンオイルも 3,000 km も保たなくなり、アクセルを踏む度にマフラーから黒い排気ガスが…… 途中二度の事故（シカと自爆）がありましたが無事に乗り続けた 26 年間でした。現在新しい診療車が届き白黒の塗装をしているところです。

来月のこの欄で紹介できるとおもいます。